

先週の7日（火）に、令和2年度入学式を無事終えることができました。

保護者の皆様には、教室への移動の自粛等、何かとご不尽なことをお願いしまして、誠に申し訳なく思っています。

昨日の登校日では、元気な声と笑顔に接することができ、ホッとしています。

次に、入学式における私の式辞を掲載します。一年間、よろしくお願いいたします。

校庭の桜の花が満開を迎え、春の訪れを感じる頃となりました。

本日ここに、令和2年度南砺市立井波中学校入学式を挙行いたしましたところ、ご多用の中、南砺市教育委員会教育委員 水上和夫様をはじめ、ご来賓の方々にご臨席を賜りましたこと、高い所からではございますが、心より厚く御礼申し上げます。また、保護者の皆様方、お子さまのご入学おめでとうございます。教育を取り巻く状況は、必ずしも夢や希望に満ちあふれたものばかりとは言えず、少なからず不安もあることかと存じます。しかし、私たち教職員一同、お子様の無限の可能性を引き出し、伸ばすための努力を重ねてまいります。

さて、新入生69名のみなさん、入学おめでとうございます。みなさんは、今日から井波中学校の生徒です。先輩にあたる二、三年生の在校生そして教職員の方々と、ぬくもりのある交流を通しながら、中学生として立派に成長してほしいと思います。

ここで、これからの三年間、私が皆さんによく話す言葉を紹介します。それは、「中学校は社会に出る準備をし、大人になるための学校」という言葉です。大人とは、自分のことは自分でできる人であり、また、自分のために、人のために何をすべきかが分かっている人のことを言います。こうした大人になるため、私は、この三年間で挑戦して欲しいことを、二つにまとめてみました。

まず一つ目は、中学校三年間を、「自分発見の三年間にしてほしい」ということです。自分はどのような人間であり、どんな能力があるか、将来どのような方向へ進むと良いか、ふるさとにどう貢献するか、など、自分という人間をしっかりと見つけてほしいのです。この中心は、なんといっても「学習」だと思います。あせらず、自分の力に応じた学習の仕方を工夫し、時には仲間のペースに合わせながら学習を進めることです。

二つ目は「周りから信頼される人になって欲しい」のです。学校というところは、様々な人々との関わりで、自分が成長していくところです。私は、社会人として人柄の判断材料となるのは「約束を破らない人」だと思います。相手や集団のことを考え、目配り・気配り・心配りのできるところに、多くの人は感謝の気持ちを寄せてくれると考えます。

以上、2つの挑戦目標を言いましたが、コロナウイルスの出現により、学校生活で不都

合なことが突然起こるかもしれません。しかし、大切なことは、嘆きつつも、それを乗り越える力をつけることだと思います。外出禁止が続いているフランスのパリでは、毎晩8時に人々がバルコニーから一斉に拍手を送っているとのこと。この拍手は、懸命に治療を続けている医療関係者への感謝と激励であり、ウイルスには負けない強さと連帯感を示すものであります。

井波中学校には、生活のよりどころとなる校訓として、「自主完遂(すい)」「明朗闊達(かっただつ)」「質実剛健」があります。この校訓のもと、パリ市民に負けじと、今、この時から「自分探しの三年間の旅」に、力強く出発しましょう。

最後になりましたが、本日ご臨席賜りましたご来賓の皆様、保護者の皆様に、今後とも本校の教育活動に対して、深いご理解と温かいご支援をいただきますようお願い申し上げますとともに、新入生の皆さんが、心身共に大きく成長することを期待して、式辞といたします。

令和2年4月7日

南砺市立井波中学校校長 河原 秀樹